決算審査特別委員会

平成22年9月13日(月曜日)

決算審査特別委員会

平成22年9月13日(月曜日)

付議事件

《付託議案》

- 議案第 2号 平成21年度旭市国民健康保険事業特別会計決算の認定について
議案第 3号 平成21年度旭市老人保健特別会計決算の認定について
議案第 4号 平成21年度旭市後期高齢者医療特別会計決算の認定について
議案第 5号 平成21年度旭市介護保険事業特別会計決算の認定について
議案第 6号 平成21年度旭市下水道事業特別会計決算の認定について
議案第 7号 平成21年度旭市農業集落排水事業特別会計決算の認定について
議案第 8号 平成21年度旭市水道事業会計決算の認定について
議案第 9号 平成21年度旭市病院事業会計決算の認定について
議案第10号 平成21年度旭市国民宿舎事業会計決算の認定について

出席委員(9名)

委員長	滑川 公英	副委員長	景山 岩三郎
委員	向後 悦世	委員	伊藤 房代
委員	平野 忠作	委員	島田 和雄
委員	伊藤 保	委員	飯嶋 正利
委員	大塚 祐司		

欠席委員(なし)

委員外出席者(2名)

議長	林 一哉	副議長	嶋田 哲純
----	------	-----	-------

説明のため出席した者(39名)

副市長	増田 雅男	財政課長	加瀬 正彦
-----	-------	------	-------

税務課長	堀川茂博	保険年金課長	花香寛源
高齢者福祉課長	渡辺輝明	農水産課長	堀江隆夫
下水道課長	佐藤邦雄	会計管理者	高山重幸
水道課長	小長谷博	監査委員局長	平野修司
国民宿舎 支配人	増田富雄	病院事務部長	渡辺清一
病院事務次長	石鍋秀和	病院経理課長	鈴木清武
病院再整備室長	鍋木友孝	病院施設課長	永嶋英和
病院契約室長	奴賀政志	病院総合対 策室長	野口稔
その他担当 職員	21名		

事務局職員出席者

事務局長	堀江通洋	事務局次長	向後嘉弘
主査	穴澤昭和		

開議 午前10時 0分

委員長（滑川公英） おはようございます。

9月10日に引き続きまして、ご苦労さまでございます。

暑さもきょうまでと言われています。きょう一日、決算審査特別委員会は一日ですが、よろしく願いいたします。

ただいまの出席委員は9名、委員会は成立いたしました。

それでは、ただいまより決算審査特別委員会を開会いたします。

9月10日に引き続きまして、林議長と嶋田副議長に出席をいただいておりますので、代表して林議長にごあいさつをお願いいたします。

よろしく願いいたします。

議長（林 一哉） おはようございます。

委員の皆さん方には本当に大変ご苦労さまでございます。

過日は、議案第1号の審議をしていただきました。本日は議案第1号に引き続きましての、きょうは議案第2号から議案第10号までの特別会計及び企業会計についての審査等をしていただくことになっております。ひとつ範囲も広うございますので、どうか十二分に審議していただきまして、ご理解を賜りますように私からお願いをいたします。大変ご苦労さまでございます。

委員長（滑川公英） ありがとうございます。

議案説明のため、副市長ほか担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、増田副市長よりごあいさつをお願いいたします。

副市長。

副市長（増田雅男） おはようございます。

9月10日に引き続き、決算審査特別委員会の開催、大変ご苦労さまです。

本日審査をお願いいたしますのは、先ほど議長さんのほうからもあいさつの中で申し述べましたとおり、平成21年度の特別会計、公営企業会計の各決算議案9件でございます。執行部といたしましては、委員の皆様方からのご質問に対しましては、簡潔に答弁するよう努めてまいります。何とぞ全議案認定くださいますよう、よろしく願いいたします。

ここで委員長にご理解とご了解をいただきたいのですが、ご質問の内容によりましては、

担当者に直接答弁させる場面もあろうかと思しますので、よろしくお願い申し上げます。

以上、簡単でございますが、ごあいさつとさせていただきます。本日はご苦労さまでございます。

委員長（滑川公英） ありがとうございます。

ここで、増田副市長は所用のため退席をいたします。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんはそのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時 3分

（副市長退席）

再開 午前10時 4分

委員長（滑川公英） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の説明、質疑

委員長（滑川公英） ただいまから、本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る9月3日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案第2号から議案第10号までを順次議題といたします。

それでは、本日の日程についてでございますが、議案第2号から順次審査を行います。会場の都合により、担当課の入れ替えを議案第2号から議案第10号までの9議案を三つに区分して行いたいと思います。

初めに、特別会計の議案第2号から議案第5号までを、次に議案第6号と議案第7号、最後に企業会計の議案第8号から議案第10号までの三つに区分して担当課の入れ替えを行いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、付託議案の審査を行います。

初めに、議案第2号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

保険年金課長（花香寛源） それでは、議案第2号につきまして補足説明を申し上げます。

本会議におきまして、決算書をもとに説明いたしましたので、本日は皆さん、この21年度

旭市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算に関する説明資料、これをご覧になっていただきたいと思います。

それでは、まず1ページの上段の表でございますけれども、世帯数と被保険者数の推移でございます。世帯数、一番右の欄でございますけれども、21年度をご覧になってください。世帯数が1万3,492世帯、前年度と比較しまして65世帯、0.5%の減でございます。被保険者数、2行目ですけれども、総数、年間平均2万9,455人、333人減の増減率で1.1%の減でございます。

下の表、国保加入率の推移でございますが、まず世帯割合、住民基本台帳の世帯数に対しまして国保の世帯数は1万3,425世帯で、加入率は56.6%ございました。人口割合から申し上げますと、住民基本台帳人口6万8,955人に対しまして、国保の被保険者数は2万9,105人で、加入率は42.2%ございました。

続きまして、2ページをご覧になってください。

保険給付の状況の中の医療給付の状況でございますが、2ページの下の方の表をご覧になって、合計の21年度、一番下の数字でございますが、保険給付費の総額は50億4,120万2,000円で、対前年6.0%の増ございました。

一番右側ですけれども、1人当たりの給付額に直しますと17万1,149円で、やはり前年度増減率、これも7.2%の増ございました。

3ページをご覧になってください。

3ページの表の一番上の右側のところでございます。短期人間ドック給付状況でございますが、21年度は498件、前年度と比較しまして128件増で、給付は2,396万8,000円ございました。

真ん中の表、任意給付の欄をご覧になってください。

真ん中辺ですが、出産育児一時金、21年度は、一番下の欄でございますけれども、件数は157件ございました。給付額は6,204万円。その右側、葬祭費につきましては173件、給付額は1,211万円ございました。出産育児一時金につきましては、前年度と比較しまして18件の増、葬祭費につきましては3件の増ございました。

続きまして、4ページをご覧になってください。

保険税の収納状況でございます。上の表でございます。21年度の欄、調定額27億2,658万8,000円に対しまして収入済額は、現年度分でございますけれども、23億7,800万4,000円ございました。収納率は87.2%。滞納繰越分につきましては、収納率は14.2%ございました。

た。

5 ページをご覧になっていただきたいと思います。

5 ページの下の欄でございます。7 番です。後期高齢者支援金の状況でございますけれども、21年度は13億801万7,000円で、対前年度と比較しまして11.3%の増でございました。これは、老人保健拠出金から後期高齢者医療制度に変わりました、20年度から発生したものでございます。

続きまして、6 ページの8 番、介護納付金の状況でございます。

21年度の欄、納付金額は5 億5,747万2,000円、対前年度2.4%の減でございました。これは被保険者数が減になったことの要因でございます。

なお、1 人当たりの負担額はご覧になっていただくとおり5 万246円で、昨年度と比べて1.2%の増でございます。

続きまして、滝郷診療所の状況でございます。7 ページ。21年度、診療日数242日、患者数は7,847人で、対前年度1.3%の増でございました。

なお、診療収入につきましては6,529万4,000円で、0.5%の増でございました。

以上、簡単でございますが、補足説明といたします。

以上です。

委員長（滑川公英） 担当課の説明は終わりました。

議案第2号について質疑がありましたらお願いいたします。

伊藤委員。

委員（伊藤房代） おはようございます。

何点が質問させていただきます。

まず1 点目、決算書の382ページの歳入、1 款の国民健康保険税でございますけれども、不納欠損額が1 億2,396万2,278円となっております。20年度決算では、不納欠損額が7,980万8,288円でございます。21年度決算では、4,416万8,990円も不納欠損が増えています。

また、収入未済額も20年度決算では13億967万2,121円、21年度決算では13億3,745万6,948円で、比較すると2,878万4,827円増えていますが、その理由をお聞かせ願いたいと思います。

それから、もう1 点でございますけれども、決算書の409ページ、8 款、備考欄3、短期人間ドック事業、13節人間ドック委託料2,819万8,090円ということで、やはり20年度決算では2,106万2,550円ということで、21年度決算は713万5,540円の増となっております。特定健康診査事業からの流用増151万9,000円差し引いても561万6,540円の増となっております。

先ほどこの資料のほうで、21年度は短期人間ドック498名ということで、20年度は370人が受けられているということでございますけれども、その128人増えた、年齢別ですか、もし分かりましたらお願いしたいと思います。

それから、もう1点、決算書の411ページでございます。

8 款の備考欄、健康優良家庭表彰事業ということで、今年度この決算書では88万1,947円でございます。20年度決算では101万756円ということで、21年度決算では12万8,809円減っておりますけれども、20年度より対象人数が減っているのか、また対象人数は何名か、また1人当たりの単価は幾らぐらいなのか、また何を差し上げているのか、その点をお聞かせ願いたいと思います。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 伊藤委員の質疑に対し、答弁を求めます。

税務課長。

税務課長（堀川茂博） 不納欠損の関係でございますけれども、要因といいますとちょっと説明しづらいんですけども、初めに、まず件数なんですけれども、質疑でもお話ししましたけれども、不納欠損につきましては18条の第1項の5年時効、それから15条の7の第4項の3年時効といいますか、一般的にそういう言い方をしておりますけれども、それと15条の7の5項の即時消滅という三つに不納欠損につきましては分類されるわけでございますけれども、委員おっしゃる様に確かに本年度につきましては、不納欠損が多いということになっておりますけれども、要因につきましては、過去におきまして一つは分納誓約といいますか、そういうことを旧旭時代ですけれども、それも原因の一つになりますけれども、分納誓約しますと時効が中断してしまうと。ただし、中断しても単なる分納誓約ですので、だんだん積もってしまうということで、最近の滞納処理におきましては、分納誓約というものは書類では受けないと。旧旭時代に書類で受けちゃってある件数が物すごくあると。それらの整理というのも一つはございます。

あと、不納欠損につきましては、ちょっと人数的になりますけれども、5年時効が622名、それから件数にしますと3,587件と、非常に大きな数字になってしまうわけですが、人数では622名、それから3年時効が196人、それから即時消滅が118人。

参考になりますけれども、ご指摘のこれぞという要因といいますか、慢性化しておりますけれども、決算書をご覧になってお気づきと思いますけれども、市民税全体と国保の滞納額が並んでしまうほど厳しい状況になっています。

例えば、1年間丸々払わなければ六・七十万いってしまうし、これが2年続けば100万円を超えてしまうと。100万円を超えてしまふとなかなか納付することが厳しくなって、一般の農家とか事業所得者といいますが、あるいは低所得者では厳しい状況になってくると。そういう状況を踏まえて、近年、都市部では保険料にかえている自治体も非常に増えています。

昨年の統計では11団体も、隣の銚子市も保険料にしてございますけれども、実際の徴収になりますと、隣は非常にうちのほうより悪いわけですがけれども、2年で時効させてしまうと。順位のほうも千葉県下で、20年で旭市は33番なんですけれども、銚子市のほうは保険料にしてあるために29番になってしまうというような、時効が5年を2年でできるという。考え方としては、保険料を払わない方はお医者さんにかかるときは100%ということで、会計にはあまり影響が少ないんじゃないかというような判断から、都市部で保険料に切り替える傾向が見られます。

以上でございます。

保険年金課長（花香寛源） それでは、まず2点目の短期人間ドックの関係でございます。

確かに昨年度と比べますと、だいぶ短期人間ドック増えております。これはやはり特定健診の受診率の向上にも寄与しているというところでございます。その年齢別ということでございますけれども、細かい分類はしておりません。実際の話、40歳から74歳までが特定健診の対象なものですから、その人数が増えているということでご理解いただきたいと思えます。

それから、健康優良家庭でございますけれども、平成21年度は、対象人数は535人ございました。何を贈ったか、それと前年度と比べましてということですが、前年度は425人ございました。ですから、110人ほど増えております。それで記念品としまして、21年度はバスマットを贈っております。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 伊藤委員。

委員（伊藤房代） 1人当たりの単価は。

委員長（滑川公英） 保険年金課長。

保険年金課長（花香寛源） すみませんでした、答弁漏れでございました。

単価的には、バスマットは1,570円のプラス消費税でしています。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 伊藤委員。

委員（伊藤房代） そうしますと、昨年度よりは単価が低くなったということで、人数が多くなりましたけれども、そういうことでよろしいですね。

（発言する人あり）

委員長（滑川公英） そのほかに。

景山委員。

委員（景山岩三郎） おはようございます。

決算書の409ページなんですけれども、たしか20年度から、特定健診は国保で実施されていると思うんですけれども、21年度はどのようになっているか、ちょっと説明お願いしたいと思います。

それと、説明書の3ページに葬祭費の件数がだいぶ減っていますよね。これはどのような要因ですか。ひとつよろしく願いいたします。

委員長（滑川公英） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

保険年金課長（花香寛源） それでは、まず1点目の特定健診の関係でございます。

409ページをご覧になっていただきたいと思います。

説明欄1番の特定健康診査等事業でございますけれども、総事業費は7,121万9,010円となっております。平成20年度より特定健康診査の受診数がやや減少した関係で、事業費の支出も、それに伴い若干少なくなっております。

20年度と21年度の特定健診の委託機関は見積もり合わせの結果、変更なく、1人当たりの基本項目単価は集団健診が5,190.15円、個別健診が7,100円となっております。

平成21年度の委託料は6,223万522円で、特定健康診査の受診数の内訳は、各保健センターで実施する集団健診、これが4,186人、それから市内の指定医療機関で実施する個別健診、これが5,562人、それからJA厚生連で実施する農業者健診、これは国保の加入者分でございますけれども、その231人の合計9,985人となっております。

また、先ほど質問にありました人間ドック、これの受診者数498人を合わせますと1万483人となっております。そのうち特定健康診査対象年齢、これが40歳から74歳でございますけれども、その受診者数は8,433人となっております。

それから、もう1点、葬祭費の関係ですけれども、先ほど決算の説明の中で説明したとおり、葬祭費、21年度は173万円、20年度が170万円、19年度が575万円ということでございますけれども、これは75歳以上は後期高齢者医療、そちらのほうの葬祭費のほうで支出してい

るという関係でございます。

委員長（滑川公英） ほかに質疑ありませんか。

飯嶋委員。

委員（飯嶋正利） 決算書の364ページ、繰入金です。基金繰入金4億4,600万円と、非常に厳しい中、基金のほうからかなり多くの額が入っているようですが、21年度も22年度もこのような措置で、最終的に今現在どのくらいの基金が残っているのか。

また、これに伴って、この健康保険税の割合、また税額の改定なども考えておるのかというのは、いかがですか。

委員長（滑川公英） 飯嶋委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

保険年金課長（花香寛源） それでは、ご質問にお答えしたいと思います。

まず、基金の現在高はどのくらいかということでございます。基金の現在高は21年度末で1億7,549万円ほどでございます。本年度、21年度の決算で、いわゆる剰余金が2,100万円ほどですので、その剰余金処分ですね、それをもって1,100万円ほど積み立てました。それで、1億8,600万円ほどの基金でございます。

ただ、非常に一般質問の中でも市長さんが答えたとおり、単年度収支がかなり、21年度は厳しい状況であったと。22年度はどうなのかということでございますけれども、21年度の当初予算では基金の繰り入れにつきましては、実はご承知のとおり3月のときに、専決処分で7,000万円ほど急遽取り崩しいたしました。その前の当初予算で組んだときは、2億4,000万円ほどの繰り入れを22年度予定してあるんですけども、実際には現状では1億8,600万円、ですから、これらについても足りない分は補正で対応しなければならない。ですから、非常に足りない部分は、基金は早く言えば1億8,000万円ほどですけども、22年中には現実的にはゼロになってしまう。ですから、その足りない部分は一般会計なり何なりの会計から繰り入れをしなければならないのかなと思っています。

あとは、税の関係ですけども、これらもいわゆる保険給付費の伸びなどを考慮しまして、どのくらいこれから先が厳しいのかという算定もしなければいけませんし、その辺のところを総合的に勘案して税のほうを検討しなければならないのかというところでございます。

以上でございます。

委員長（滑川公英） そのほかに。

島田委員。

委員（島田和雄） 今の質問にも関連するわけですが、保険給付費が大分伸びが大きいというようなことでございますけれども、21年度は結構な伸びをしているわけですが、この理由についてお伺いしたいんですけれども、今後も続くような理由なのかどうかということなんですけれども。

それから、先日、一般質問で太田議員が質問されたんですけれども、その国保税の中で、滞納されている方の中で市外に転出されちゃった方が510人ほどいたということなんですけれども、これらについての納税についてのやり方というのはどういうふうに行っているのか、その辺をお伺いします。

それと、もう1点ですが、特定健診についてお伺いしますが、受診者数が下がっているというお話でしたけれども、この特定健診のいろんな実績が、後期高齢者の支援金に、25年度からでしたっけ、たしか実績が評価されて支援金の変動するということがありましたよね。受診率が下がっているというように、ちょっと心配しているわけなんですけれども、その辺について実績を上げなければならないと思いますけれども、その辺考えてられるのかどうか、お伺いします。

委員長（滑川公英） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

保険年金課長（花香寛源） まず保険給付費、今までの過去の推計から見まして、確かに平成21年度は、保険給付費は今までより大きな伸びを示しております。ですから、全体的に6%なり7%の伸びを示しているんですけれども、一つ考えられる原因としましては、昨年度についてはインフルエンザの関係もあったのかなと。それは毎月の医療費の推計を見ますと、12月分いわゆる12月診療部分の医療費が特出してちょっと高いという傾向があります。ただ、これもインフルエンザの影響だけかということでもなく、これは全国的な傾向だと思いますけれども、医療費が結構やはり上がっております。本年度の何か月かを見ても、医療費の伸びは伸びているような傾向でございます。なぜ医療費が伸びるかというのは、ちょっとそこまでは申し訳ありませんが、自分のほうでは分かりません。

それから、特定健診の受診者数の関係です。確かにいわゆる目標が、65%を目標にしているわけですが、これが始まったときは、後期高齢者の支援金について、その分、65%達成していなかった部分について割り落としするよというような話でございました。その辺のところを考慮しまして、市としても一生懸命PRに努めてやっているんですけれども、実際は若干21年度は20年度に比べるとパーセント値がちょっと低かった。これについては、中

には結構自分で医者にかかっているからという方もいらっしゃると思いますので、何とも言いえないんですけども、その辺のところ、将来の医療費を抑制するためには、やはり特定健診を受診してってもらったほうが、個人の情報として適宜に努めていけば抑制にもつながるので、その辺のところをPRしながら努めていきたいと思っています。

ただ、後期高齢者支援金のほうの影響のことですけれども、その辺のところはこのところ通知とかはありません。言責に言いますと、受診率は平成20年度しか分かっていませんけれども、国が30.8%なんですね、平均が。旭市のほうは45.7%、県内でも5番目の高さ、県の平均も35.6%。ですから、いわば全部の市町村から65%届くのはどうなのかなというような状況もあるということで、いずれにしましても、特定健診につきましては保険給付費の抑制にもなりますので、一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 税務課長。

税務課長（堀川茂博） ご質問の国保税の市外転出者の徴収はどのように行っているかということでございますけれども、確かに国保税につきましては、総額からいきますと非常に市外転出者の滞納が増えている傾向にあります。ご質問でもお答えしたとおり、市外の滞納者が510名おります。金額にいたしまして7,804万5,565円ということで、非常に高額になっております。

ただ、国保税の市外の滞納者につきましては、アパートとか一時的な居住で転出してしまいう傾向があると。その中でも、ウエートの高いのでは外国人も含まれているということで、市外の滞納処理については市内と同様に行っておりますけれども、差し押さえするにしても時間と労力も非常にかかるということで、ただ放置はしておりません。当然督促状を発送し、催告、最終通告して、財産調査して市外の市町村に依頼しまして、あればするということになりますけれども、転出者につきましては、やはり仕事についても点々とする傾向がございます。転出も1回の転出でなく、それからさらにまた別の場所へ転出してしまいうということで、追跡調査につきましても大変厳しい状況にあります。ということでご回答になりますでしょうか、よろしく申し上げます。

委員長（滑川公英） ほかに質疑はありますか。

平野委員。

委員（平野忠作） 決算書の366ページ、12款諸収入の雑入、これは予算現額が2,084万6,000円、収入済額が5,306万9,433円、それで収入済額との比較で3,222万3,433円。これは

よく分かるんですけども、雑入というのはどのようなものになるんですか、分かれば簡単にご説明のほうをよろしくお願いします。

委員長（滑川公英） 平野委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

保険年金課長（花香寛源） 雑入の関係なんですけれども、非常に大きいのは人間ドックの自己負担分、人間ドックにつきましては15%が自己負担なんですけれども、その負担分。それから、交通事故における第三者納付金、それも雑入であります。

それから、本年の雑入がちょっと大きかった理由としましては、老人保健の拠出金、いわゆる20年度で終わったんですけども、その清算金として2,900万円ほど入っております。そういったものが大きい要因になってございます。

委員長（滑川公英） 伊藤委員。

委員（伊藤 保） 説明書の3の高額療養費の件ですけども、説明資料の3です。高額療養費が件数が約倍に増えているんですね。これは20年度から増えているんですけども、この要因というのは、やはり使用する方が増えてきているという状況なんでしょうか。

それともう1点は、この高額療養費の中に通院高額医療費というの也被含まれているのでしょうか、それをちょっとお聞きしたい。

委員長（滑川公英） 伊藤委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

保険年金課長（花香寛源） 高額療養費は、3ページの保険給付費の法定給付の中の高額療養費の欄でよろしいでしょうか。件数的にも増えているということもありますけれども、なぜ増えたかというのはちょっと……。

（発言する人あり）

保険年金課長（花香寛源） 20年度から増えているというのは、20年度から、いわゆるこの中の、対象が退職被保険者というのがあります。その分の年齢構成でもって、年齢が65歳までの部分と65歳から74歳までの退職被保険者部分が国保の一般のほうになったんですよ。その区分の違いで増えているんじゃないかと思えます。

それと、通院の高額療養が含まれているかということですが、これは含まれております。

よろしいでしょうか、回答になったかどうかちょっと分かりませんが。

委員長（滑川公英） そのほかには。

（「なし」の声あり）

委員長（滑川公英） 特にないようですので、議案第2号の質疑を終わります。

続いて、議案第3号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

保険年金課長（花香寛源） 第3号の老人保健特別会計決算につきましては、本会議でも申したとおり、20年度でこの制度は終了してしまっていて、21年度分については過誤調整部分だということをご理解をいただきたいと思います。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 議案第3号について質疑ございませんでしょうか。

（「なし」の声あり）

委員長（滑川公英） 特にないようですので、議案第3号の質疑を終わります。

続いて、議案第4号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

保険年金課長（花香寛源） それでは、議案第4号、旭市後期高齢者医療特別会計決算の関係でございますが、本会議で予算書をもとに説明いたしましたので、本日は皆さんのお手元に資料があると思います。旭市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算に関する説明資料をちょっとご覧になっていただきたいと思います。

資料は1ページのみでございます。まず、21年度の平均被保険者数につきましては、合計欄8,488人ございまして、前年度で比べますと155人増の1.9%増でありました。

それから、その下の被扶養者であった被保険者数については1,522人でございます。

2番目、下の表でございます。後期高齢者医療保険料の収納状況でございますが、特別徴収と普通徴収がありまして、調定額、特別徴収は1億8,375万6,000円に對しまして、収入済額1億8,375万6,000円、収納率は100%でございます。

普通徴収の現年度分でございますが、9,455万3,000円に對しまして、収入済額が9,246万3,000円、徴収率は97.8%。滞納繰越分、調定額173万2,000円に對しまして収入済額80万8,000円で、徴収率は46.7%でございます。

合計の徴収率につきましては、一番右側の下にあるとおり、現年度分については99.2%、滞納繰越分が46.7%、合計98.9%でございます。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 担当課の説明は終わりました。

議案第4号について質疑がありましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

委員長(滑川公英) 特にないようですので、議案第4号の質疑を終わります。

続いて、議案第5号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

高齢者福祉課長。

高齢者福祉課長(渡辺輝明) それでは、お手元に決算に関する説明資料、こちらに基づきまして補足説明を申し上げます。

1ページでございます。1番の高齢者人口等につきましては、本会議でご説明いたしましたので省略させていただきまして、2番以降についてご説明をいたします。

2番の要介護認定者数については、年度末である平成22年3月末の状況を掲載しております。介護度が一番軽い要支援1から、一番重い要介護5までのそれぞれの人数、構成割合を示しており、前年度と比較しますと、人数は126人が増加するとともに、構成割合につきましては要支援1から要介護1の軽度者と要介護5の認定者のほうが微増しているとともに、要介護2から要介護4の認定者が微減しているような状況でございます。

3番の介護保険料につきましては、第4期介護保険事業計画、平成21年度から平成23年度までについて定められたものでございます。保険料の所得段階は前年度、これは20年度の場合は6段階でございましたが、21年度からは9段階になりまして、年額は基準額で3万5,400円から3万8,448円と、8.6%の増となりました。

4番の所得段階別第1号被保険者数は所得段階別の人数、割合を示しており、前年度と比較して人数は180人の増加、その内訳としては、基準額である第5段階を含む4段階から6段階までの3段階の合計が、全体の60%を占めているのが特徴でございます。

3ページの5番、保険料の納付状況については本会議においてご説明いたしましたので省略させていただき、6番の保険給付費のサービス別支出状況について決算書にも細かく記載されておりますが、この表のほうが分かりやすいと思いますので、こちらを使用して特徴的なことをご説明いたします。

まず、居宅サービスでございますが、の訪問介護からの居宅介護サービス計画給付費で、在宅にいながらにして受けられるサービスでございます。サービスの利用状況を給付費の支出額から多い順に申し上げますと、一番多いのが通所介護で、介護施設で食事や入浴など、日常生活の支援を受ける日帰りサービスでございます。いわゆるデイサービスと言われているもので、こちらが最も利用されております。

次いで訪問介護で、ホームヘルパーが居宅を訪問し、身体介護や生活援助を行うサービス

でございます。

3番目が の通所リハビリテーションで、デイサービスと同様に、通いながらリハビリテーションを受けるサービスです。居宅サービスを受ける月平均利用者数は1,227人で1人当たりの年間給付費は116万2,000円となっております。

次の地域密着型サービスは、住みなれた地域における生活を続けるために、地域の特性に応じたサービスが提供されるものでございます。

の認知症対応型共同生活介護は、認知症対応のグループホームでございます。月平均の利用者数は39人で、1人当たりの年間給付費は285万2,000円となっております。

番の地域密着型介護老人福祉施設は、旭市民を対象とした特別養護老人ホームでございます。月平均の利用者数は38人で、1人当たりの年間給付費は268万3,000円となっております。

最後の施設サービスでございますが、特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養病床と、いわゆる介護3施設に入所している利用者が受けるサービスでございます。介護老人福祉施設、いわゆる特別養護老人ホームの月平均利用者数は329人で、1人当たりの年間給付費は292万9,000円となっております。

の介護老人保健施設の月平均利用者数は194人で、1人当たりの年間給付費は307万3,000円となっております。

最後に、介護療養型医療施設の月平均利用者数は5人で、1人当たりの年間給付費は390万1,000円となっております。

最後に、保険給付費の合計額が34億1,709万4,334円となり、前年度と比較しますと8.8%の伸びとなっております。

続いて、決算書のほうをお開きいただきたいと思います。

この中で補足説明を行いますのは地域支援事業、507ページのほうをお開きいただきたいと思います。

備考欄1番、特定高齢者把握事業は、近い将来、介護保険の認定者になるような方々を把握いたしまして、介護予防につなげるための事業で、21年度において290の方が特定高齢者に認定されました。

続いて、513ページでございます。地域支援事業の中の任意事業であります。備考欄1番、家族介護用品給付事業は、寝たきりや認知症状がある高齢者で、常時失禁状態にある方に紙おむつを支給する事業で、21年度においては506の方が利用されました。

同じく、3番の配食サービス事業は、ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯で調理の困難な方に昼食を自宅に配送しながら安否の確認を行う事業で、21年度では170名の方が利用されております。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 担当課の説明は終わりました。

議案第5号について質疑がありましたらお願いいたします。

景山委員。

委員（景山岩三郎） 3点ほど伺います。

決算説明資料の3ページにあります地域密着型サービス、今説明を受けましたけれども、もうちょっと詳しく分かりましたらお願いいたします。

それと、決算書の491ページの備考欄で、下のほうに第三者寄附金として505万9,889円と記載されていますが、この内容について、すみませんけれども、お願いいたします。

それともう一つ、決算書の466ページ、平成21年度後期高齢者医療保険料の現年度分の収入未済額209万200円、滞納繰越分普通徴収料の収入未済額92万4,400円、それぞれの人数、件数、比較はどれぐらいか、ひとつお願いいたします。

その3点です。お願いいたします。

委員長（滑川公英） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

高齢者福祉課長（渡辺輝明） 地域密着型サービスの関係でもう少し詳しくということですので、今概要については先ほどの補足説明で申し上げましたけれども、地域密着型サービスの中で、今うちのほうで行っているのは認知症対応型のグループホーム、それから29人以下の小規模の特別養護老人ホームでございます。その中で、私どもで今考えておりますといひましようか課題になっておりますのは、どちらもユニット型という形で、1人の方それぞれにお部屋を占有されて、それであと共用スペースとして、団らんあるいは食事のほうのスペースがあるというような形になっております。

そういう関係で、従来型の広域型の特別養護老人ホームと比べますと、居住費の割合が高うございます。多床室ですと、一般的に1人1万円程度なんですけれども、ユニット型になりますと、6万円強という形で、その金額のほう負担限度額ということで、年金が80万円以下の方の場合には、付加の給付がございますけれども、金額のほうが大分違いますので、旭市の今の高齢者の方にとっては、なかなか入居するのが厳しいのかなと、そういうふうに

考えております。

それから、2点目の第三者納付金の関係でございます。こちらのほうは交通事故等によりまして、それが原因で介護が必要になった方、そういう方がございます。そういう方につきましては、過失の割合において加害者のほうの方からその費用をいただくということで、こちらの事務のほうは国保連合会に委託しておりまして、そちらのほうで21年度につきましては2件ございまして、この金額のほうをいただいたということでございます。

以上でございます。

それから、あと1点、466ページの後期高齢者については、介護保険では、私のほうでございませので、すみません、よろしく申し上げます。

委員長（滑川公英） 保険年金課長。

保険年金課長（花香寛源） 後期高齢者だと4号なんですけれども、質問がありましたので、お答えいたします。

467ページの収入未済額の関係でございます。現年度分の収入未済額は209万200円、これは件数にして596件、人数で159人でございます。現年度分の調定額2億7,830万9,000円に對しまして、0.8%の未納となりました。

それから、滞納繰越分の普通徴収保険料につきましては173万2,100円、これが調定で、そのときの人数が100人でありました。21年度中に42人の方より80万7,700円の納付がありましたので、残る92万4,400円については、58人について収入未済ということで、調定額に對しまして53.4%が未納ということでございます。

以上でございます。

委員長（滑川公英） ほかに。

向後委員。

委員（向後悦世） 説明資料の3ページなんですけど、旭市介護保険特別事業の事業費なんですけど、34億1,700万円、そういう部分で説明だと何か8.8%の伸び率なんですけど、この動向はずっとこのような伸び率を示していくのか、もう10年とか20年はこういう動向にあるのか、そこら辺の推移状況をちょっとお示しいただければと思います。

委員長（滑川公英） 向後委員の質疑に對し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

高齢者福祉課長（渡辺輝明） この保険給付費の動向でございますが、まず1点目は、先ほどの補足説明でも申し上げましたように、65歳以上の高齢者の方が、今、約1万6,500人で

すけれども、平成26年度で約1万8,000人、確実に十数%増える形になっております。

それから、当然こういう高齢者のさまざまなサービスのほうが、事業所もございませし、あるいは施設のほうもございませ。そうすると、今のひとり暮らしの高齢者あるいは高齢者世帯となりますと、従来までの3世代同居といいましょうか、家族に支えられていた介護というのが、今後どうしても厳しくなると。そういう状況になりますと、この動向としてはこういう数値が、経済情勢で多少伸びが鈍化するとかはあるかもしれませんがけれども、基本的な趨勢としては今後伸びるという形で考えております。

以上でございます。

委員長（滑川公英） そのほかには。

島田委員。

委員（島田和雄） 今朝、NHKでやっていたんですけれども、介護者のほうの支援というような話題でテレビでやっていたんですけれども、旭市の場合にそういった中で、要介護認定で介護保険を利用していない人といったような数字は把握、逆に言えば利用している人を除けば利用していない人になるんですけれども、どのくらいになるのかちょっとお伺いします。

委員長（滑川公英） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

高齢者福祉課長（渡辺輝明） 要介護の認定を受けている方、これ1号の65歳以上の方と2号の40歳以上65歳未満の方、合わせまして約2,200人くらいでございます。そのうち介護サービスを使っている方が約1,800人強で、大体9割の方は使っていらっしゃるというような形、概略でございますが、月によって違いますので、そういうような状況になるかと思えます。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 島田委員。

委員（島田和雄） わかりました。

市の事業なんですけれども、介護度が4から5の人を自宅で介護した場合に、月額1万650円を支援する事業……、名前ちょっと今何ていったか、事業の名前はちょっと……

（発言する人あり）

委員（島田和雄） ああそうですか、その事業なんですけれどもね、この事業を受給されている方は、介護保険の利用状況はどの程度になっているのかお伺いしたいんですけれども。

委員長（滑川公英） 高齢者福祉課長。

高齢者福祉課長（渡辺輝明） 現在21年度で136人の方が利用されています。旭市のほうで支給しております。そのうち利用の状況なんですけれども、全体としては通常、先ほど申し上げましたような同じような状況な形になっております、ほぼ同じような状況。約9割の方が、使わない方はおおむね1割くらいというような形で、一つとしましては、要介護4、5となりますと、ほぼ寝たきりという形になりまして、その前に例えば手すりとか住宅改修ですか、そういうものの段階も既に終わってしまっているとか、あるいは通常ですと、介護サービスの中で寝たきりの方は、重度は重いんですけども、逆に介護する場合には、例えば認知症の方が徘徊するとかよりも介護する割合、負担の割合は逆に低くなるというような傾向もございますので、必ずしもその部分で大変な部分とサービスを利用して、ある程度介護する方のほうが動かない、動かないという言葉が語弊ありますけれども、楽な部分もあるのかなというふうに私どもでは理解しております。

委員長（滑川公英） 島田委員。

委員（島田和雄） 通常、介護度が4、5であれば、特別養護老人ホームへ入所するというような方だろうと思えますけれども、こういった方々、自宅にいられる方々については入所待ちといったようなことになるのでしょうか。

委員長（滑川公英） 高齢者福祉課長。

高齢者福祉課長（渡辺輝明） 要介護4、5の方は、実質的には国の参酌標準のほうで、要介護の3から5までの約37%を見込むような形での一つの基準がございます。その中で、この4、5で福祉手当をいただいている方の場合ですと、私どもで聞いている分では、やっぱりご自宅にいたいと。要件としては該当すると思えますけれども、ご自宅で過ごしたいという意向がございますし、それから経済的な面で、先ほど申し上げましたようにお部屋代あるいは食費等で、自宅におればその家族の中で包含されるものが、施設に入りますと個々の個人個人という形でご負担いただく形になりますので、そういう面でご自宅にいらっしゃる方もいるということで聞いております。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 島田委員。

委員（島田和雄） 費用の負担ですか、そういった面でも施設に入所することが難しいといったような考え方の方もいるというような話でしたけれども、というようなことであれば、できるだけ市のほうで支援するといえますか、自宅で介護してくれている方にもっと支援を

してもいいんじゃないかなというふうに、介護保険の立場から言えば、介護保険をそんなに使わないわけですから、給付をされていないわけですので、全体的に考えれば、そのほうが負担としては少なくなるんじゃないかなというふうに感じるんですよ。できるだけ、今自宅で介護もやってくださいというような流れになってきておりますので、そういったことで市の支援をもっと増やしてもいいんじゃないかなと。できるだけそっちに誘導するというようなことで。質問がちょっと変になりましたけれども、そういうふうに感じておりますもので、よろしくをお願いします。

委員長（滑川公英） 高齢者福祉課長。

高齢者福祉課長（渡辺輝明） こういう介護度の高い方の介護という形で、ご家族の方で介護されていても、介護サービスのほうを利用されている方が多いでございますし、今の高齢者世帯のみの場合ですと、老老介護等でなかなか難しいということで、ある面で手当は手当として支給しておりますけれども、各種サービスはそれなりに利用されているというふうに私のほうでは考えております。

あと、もう1点です。施設に比べますと当然在宅のほうが、先ほど申し上げましたように負担のほうは低くなります。国のほうでも、在宅でという形の中での流れを考えておるようですけれども、やっぱり一つとして、ひとり暮らしの方あるいは高齢者世帯が増えている中ではなかなか難しいのかなと。

それと、この手当のほうとか、あるいはこれ以外に介護している方の支援という形になりますと、当然また保険料のほうにはね返りますので、その辺はなかなかちょっと難しい面がありますので、ご理解いただければと思います。

以上でございます。

委員長（滑川公英） そのほかに。

伊藤委員。

委員（伊藤 保） 決算書の513ページの6番です。成年後見人制度利用支援事業というのがありますね、9,350円と。この成年後見人制度は分かるんですけども、市役所では利用支援制度というのは、どのようなことをやられているのかお聞きしたいと思います。

委員長（滑川公英） 高齢者福祉課長。

高齢者福祉課長（渡辺輝明） この成年後見制度の利用のほうでございますが、成年後見には、ご存じのように法定後見と任意後見がございます。私どものほうでこの事業でやったのは法定後見ということで、既に認知のほうが進んで、ご自分での判断が難しくなっている。

それで通常ですと、4親等以内のご親族の方が、家庭裁判所でございますけれども、申出すればいいんですけれども、たまたまこの21年度の関係ですと、お母様が高齢で認知症、娘さんが精神のほうの関係ということで、たまたま4親等以内にいらっしゃらなかったものから、市町村長が申し出たという形はこちらのほうを使いました。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 特にないようですので、議案第5号の質疑を終わります。

それでは、議案第2号から議案第5号までの担当課は退席をしてください。

議案の審査は途中でありますが、ここで11時25分まで休憩いたします。

休憩 午前11時13分

再開 午前11時25分

委員長（滑川公英） 休憩前に引き続き会議を開きます。

続いて、議案第6号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
下水道課長。

下水道課長（佐藤邦雄） 議案第6号、旭市下水道事業特別会計の決算の認定につきまして、お手元にお配りしてあります決算に関する説明資料、これでございます。A4、3枚つづりの資料により補足説明をさせていただきます。

まず、表紙をめくっていただきまして、1ページ目をご覧ください。

1ページ目は下水道建設事業の概要でございます。

事業費としましては、5億3,099万1,000円でございます。財源の内訳は、右側に表記したとおりでございます。工事の内容としましては、二袋地区の8.9ヘクタール、これは国道126号、袋の交差点から、同じくマツモトキヨシの交差点、北側区域の面整備工事、また平成20年度に幹線管渠及び面整備工事を行った箇所の舗装復旧工事、具体的に言いますと、国道126号線、袋の交差点から、同じくマツモトキヨシの交差点までの区間でございます。

そして、旭中央汚水ポンプ場の土木建築工事、さらに浄化センター増設工事のための高段ポンプ棟の土木建築工事、未処理施設工事、電気設備工事などを実施したものであります。

なお、事業費の中には高段ポンプ棟建設工事で、平成20年度繰越明許分の3,500万円が含まれております。

次に、2ページ目をご覧ください。

下水道状況一覧の1番目は、下水道の整備状況でございます。平成21年度の普及率は行政区域内人口6万8,955人、世帯数でいきますと2万3,725世帯に対して、処理区域内の人口5,844人、世帯数でいきますと2,162世帯で約8.5%、前年度より0.6ポイントの増であります。

また、水洗化率につきましては、処理区域内人口5,844人、世帯数でいきますと2,162世帯に対しまして供用人口が3,375人、世帯数で1,322世帯で57.8%、前年度比1.1ポイントの減となっております。今年の7月末現在では58.3%となっております。

2番目は、受益者負担金でございます。平成21年度の受益者負担金の納入状況は、調定額5,166万3,700円に対しまして、収入済額が2,253万6,200円で、収納率は43.6%でございます。恐れ入りますが、表の下の米印に目を転じていただきたいと思います。

なお、調定額には、現年度分と合わせて過年度分が含まれておりまして、現年度分は2,097万7,000円、過年度分は3,068万6,700円が含まれており、収入済みの現年度分につきましては1,750万2,600円、収納率としましては83.4%、過年度分につきましては503万3,600円ということで収納率は16.4%でございます。

平成21年度の不納欠損額につきましては167万1,500円となっております。これは平成12年度に付加しました5年目分、平成13年度に付加しました4年目分、平成14年度に付加しました3年目分、これらの一部分が不納欠損となっているものであります。

3番目は使用料収入でございます。平成21年度の使用料の収入状況は、調定額6,455万7円に対しまして、収入済額が6,160万3,151円で、収納率は95.4%でございます。表の下の米印へ目を転じていただきたいと思います。

なお、調定額には、現年度分として6,188万9,217円、過年度分が266万790円となっており、収入済額の現年度分につきましては6,115万2,619円、収納率としましては98.8%、過年度分につきましては45万532円ということで、収納率は16.9%でございます。

なお、平成21年度の使用料の不納欠損額は28万399円となっております。

4番目は、水洗便所他改造資金補助金と利子補給金の状況でございます。水洗便所他改造資金補助金は4件で12万円、利子補給は申請がなく、ゼロでありました。

補足説明は以上でございます。

委員長（滑川公英） 担当課の説明は終わりました。

議案第6号について質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

委員長（滑川公英） 特にないようですので、議案第6号の質疑を終わります。

続いて、議案第7号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
農水産課長。

農水産課長（堀江隆夫） それでは、議案第7号、旭市農業集落排水事業特別会計決算の概要の説明をさせていただきます。概要の説明に入ります。概要のほうは本会議の中で説明してあります。今回、この農業集落排水事業の状況につきまして、若干時間をいただきまして説明をさせていただきます。

ご承知のように農業集落排水事業、污水处理施設を整備することによりまして、各家庭から出されます生活雑排水、これを集めましてきれいにして、農業用排水路この水質保全あるいは農村環境の向上あるいは河川等の公共施設の水域の保全を図る事業、こういうことで認識をしております。現在、旭市では2地区この事業を実施させていただいております。一つは江ヶ崎地区、もう一つは琴田地区でございます。いずれも旧旭市の管内で2地区、現在実施をさせていただいております。

江ヶ崎地区につきましては、平成4年度に着工しまして、平成10年6月に供用開始しております。琴田地区につきましては、平成8年度に着工して、平成13年5月に供用が開始されております。総事業費は、江ヶ崎地区で13億1,767万5,000円、琴田地区につきましては7億1,250万円、こういう事業費で現在稼働をしておるところでございます。

事業費の負担内訳につきましては、実は国からの補助これが50%、県からの補助20%、市の補助20%、受益者負担10%で実施をされたものでございます。

なお、この受益者の負担につきましては、加入時に1世帯当たり42万円の受益者負担金をいただいているところでございます。

また、維持管理費としまして、現在使っていただいている使用料金、これにつきましては基本料金が1世帯1,700円、人数割としまして1人400円、プラス消費税、4人家族の場合は1か月3,465円、こういう維持管理費となっております。本会議の補足説明で申し上げました普及率、この2地区で現在69.9%となっております。市の一般会計からの繰入金、これが平成21年度の決算で3,056万8,000円となっております。

この金額につきましては、現在の使用人口1,511人、これで計算しますと1人当たり2万230円、こういう金額になっております。そういうふうなことで、担当課としましては一にも二にもこの事業の課題、これは普及率の課題と理解をしているところでございます。このいろいろ普及率の課題の中で、まだ未接続、管は来ているんだけども接続をしていない、

そういう家庭が多くあるわけですが、その大きな要因としまして現在、合併浄化槽で処理しております、現段階では必要ないんだよなとか、あるいは接続します費用の負担、これが苦しい、そういうことが言われております。

さらには、家の建て替え時に接続する予定ですよとか、あるいは老人家庭で後継者もいなく、今後必要ないんじゃないか、そういう家庭も一部に挙げられているところでございます。

接続率が上がらない要因の一つに、1戸当たりの家族人数の減、これも挙げられます。そんなところで現在、接続の対策としましては地区管理組合、これを2地区に設置させていただいております。この管理組合自ら、まだ接続していない家庭に接続の促進を促しております。

また、さらには、担当課でチラシ等を作成しまして接続の理解を求め、こういう活動しております。今後さらなる努力を行ってまいります。

なお、21年度の決算の内容、これにつきましては本会議でご説明したとおりでございます。農業集落排水につきまして、説明は以上で終わります。

委員長（滑川公英） 担当課の説明は終わりました。

議案第7号について質疑がありましたらお願いいたします。

向後委員。

委員（向後悦世） 今、接続率が上がらないというような説明もありましたが、この農業集落排水は、市の負担や何か、今旭市も財政が非常に厳しいというような説明もありますので、やがては下水道も農業集落排水もお荷物になってくるんじゃないかなというような議論もされています。そういう点どのように事業を進めていくのか。また、農業集落排水の中期をどのように考えているのか、お尋ねしたいと思います。

委員長（滑川公英） 向後委員の質疑に対し、答弁を求めます。

農水産課長。

農水産課長（堀江隆夫） 今ご指摘いただきましたように、市の一般会計からの持ち出し、これも先ほど言いましたように、1人当たり相当の金額をいただいて運営しているところでございます。仮に、この施設内の人口がすべて入った、そういうことであっても、実はまだまだ本会計からの繰り入れがないとやっていけないと、そういう状況でございます。

担当課としましては、なるべく多くの接続をしていただいて、少しでも市からの繰り入れを少なくする。それと同時にメンテナンスをしっかりと、維持管理が多額にかからないような、そんなことで努めたいと思っております。

それと、現段階での区域のさらなる拡大、これは我々もちょっと考えていなくて、その区域の中で接続率を上げる、そういうことで努めてまいりたいというふうに考えております。

委員長（滑川公英） ほかにございませんか。

（発言する人なし）

委員長（滑川公英） 特にないようですので、議案第7号の質疑を終わります。

それでは、議案第6号と議案第7号の担当課は退席してください。

議案の審査は途中ではありますが、昼食のため午後1時まで休憩いたします。

休憩 午前11時41分

再開 午後 1時 0分

委員長（滑川公英） 休憩前に引き続き会議を開きます。

続いて、議案第8号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
水道課長。

水道課長（小長谷 博） それでは、本会議で補足説明を申し上げましたけれども、もう少し説明させていただきたいと思います。

14ページをお開きいただきたいと思います。

よろしいでしょうか、建設工事の概況でございますけれども、1行目と3行目に配水区域変更に伴う配水管布設工事でございますけれども、これは区域変更ということで合併特例債の対象事業でございます。

一番上の三川地区でございますけれども、これは3か年かけて旧旭と飯岡をつなぐ工事でございますけれども、総延長は1,317メートルで、21年度実施したものが約500メートルございます。金額等については記載のとおりでございますけれども、そのほかの工事につきましては増圧のためのループ化の工事でございます。

続きまして、19ページをお開きいただきたいと思います。

会計のところでは重要契約の要旨でございますけれども、一番上の行に旭市水道お客様センター業務委託というのがございますけれども、契約金額は長期継続契約でございます、5年間で1億6,327万5,000円、21年度分のお支払いとしては3,265万5,000円となっております。

以上、簡単ですが、補足説明とさせていただきます。

委員長（滑川公英） 担当課の説明は終わりました。

議案第8号について質疑がありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

（発言する人なし）

委員長（滑川公英） 特にないようですので、議案第8号の質疑を終わります。

続いて、議案第9号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

病院経理課長。

病院経理課長（鈴木清武） それでは、先日やはり補足説明をいたしました。さらにご説明を申し上げます。

決算書の25ページをお開きください。

前年度決算との比較をご説明申し上げます。

まず、ページの上段の病院事業収益ですが、前年比2.8%増の8億5,900万円の増加となっております。

主な内訳といたしまして、上から4行目、外来収益が対前年度比4.3%増の5億5,500万円の増加となっております。その要因としまして、外来での日帰り手術の増加、次に、がん患者に対する抗がん剤投与等の化学療法の増加、こういったことによりまして外来単価が1万6,589円となり、前年比単価が1,076円増加したことによるものであります。

次に、表のほぼ真ん中、負担交付金欄をご覧ください。

不採算部門に対する国県からの交付金としまして、対前年度比、決算比ですね、17.6%増の2億3,500万円の増加がありました。

続きまして、26ページをお開きください。

病院事業費用、全体では2.7%増の8億400万円の増加であります。主なものといたしまして、上から3行目、給与費ですが、計画では、7対1看護基準取得は平成23年度から実施する予定でありました。しかしながら、1年前倒しで実施すべく看護師確保に努めてまいりました。

一方、公務員の賞与及び給与の引き下げが人事院勧告から出され、ドクター以外の職員に対して減額支給を実施した結果、給与費支給総額では対前年度比2.8%増の3億6,000万円増となりました。

次に材料費、こちらの給与費の次の行であります。こちらをご覧ください。

対前年比5.0%増の4億7,100万円増加しております。先ほど外来収益の増加について述べ

ましたが、外来収益の70%から80%程度は投薬収入となっており、3月議会で4億2,500万円の増額補正をお願いしたところであります。

以上により平成21年度病院事業会計における営業活動は、平成22年度における収益増に向けての足固めをしながらも、当期純利益は、当初予算を大きく上回る4億5,400万円余りを計上することができました。公立病院改革プランの21年度利益目標は5,600万円に対し、3億9,800万円増となり、引き続き健全な経営を維持しております。

以上でございます。よろしく申し上げます。

委員長（滑川公英） 担当課の説明は終わりました。

議案第9号について質疑がありましたらお願いいたします。

島田委員。

委員（島田和雄） では、質問させていただきます。

病院の収支につきましてご説明いただきましたけれども、総体的には大分増収しているというようなことでございましたが、そういった中でやはり病院としましては、医業による収入増、これが一番大事だと思うんですけれども、医業収益が2.1%増加したといった中で、医業費用のほうは3.1%の増ということで、費用のほうが増加が大きいというようなことでございます。この辺については医業収支といいますか、これが一番病院経営にとって大事だと思いますので、どういうふうに関後について考えているのかお伺いします。

それと、もう1点ですけれども、滝郷診療所が直接は関係ないんですけれども、いろいろと今検討されている中で、飯岡診療所の話も、この間の一般質問の中にも出てまいりましたが、飯岡診療所は中央病院の附属施設というようなことでありますが、単独で収支については出されていないのかどうか。もし出ていれば収支についてお伺いしたいと思います。

委員長（滑川公英） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

病院経理課長（鈴木清武） 先ほど医業収支という島田委員の質問だったんですが、先ほど私が説明したように、本来7対1看護基準というのは23年度から実施しますよという当初の予定でございました。それを1年前倒しするために、この21年度において看護師の確保に努めていたところでございます。

仮に看護師を20名採用しますと、1人当たり大体400万円ぐらいの費用がかかりますので、そうしますと、年間合わせると8,000万円近くの費用がかかるというような形で、要は21年度医業収支試算については、収入と費用の関係で費用のほうのパーセントのほうが多くなっ

ているという理由は、一つは、そういう7対1看護に向けての看護師増を図ったことが大きな要因になっております。

委員長（滑川公英） 病院事務部長。

病院事務部長（渡辺清一） 委員お尋ねの飯岡診療所の収支でございますけれども、21年度の決算見込みとして、うちのほうで把握している数字を申し上げます。収支としては若干赤字ということでございます。収入については合計で8,900万円ほど、支出のほうは9,300万円ほどということで、差し引き400万円ちょっとの赤字ということでございます。

ただ、病院としては診療所へ派遣しているわけですが、その分病院のほうでお医者さんが、ここで働いたほうが、その分収入にはなるということにはなると思います。

以上です。

委員長（滑川公英） 島田委員。

委員（島田和雄） この飯岡診療所の収支についてお伺いしたわけですが、滝郷診療所と比較しますと、ややこの収支の規模が大きいというように思いますが、実際に診療している時間とかが長いとか日にちが多いとか、そういうようなことでしょうか。

委員長（滑川公英） 病院経理課長。

病院経理課長（鈴木清武） 飯岡診療所に関しては、診療時間は午前中になっております。あと、費用に関してはそれぞれのドクターなり、構成によりまして多少の費用の部分というのは違いますけれども、その部分をきちっと原価計算の中で、例えば部長クラスが行った場合には、部長クラスの給与費の中でやっております。

ただ、滝郷診療所に関しては、同じ旭市役所の中という中で、病院としては通常のほかの病院に医師を派遣するよりも安い形でやらせていただいています。

以上でございます。

委員長（滑川公英） そのほかには。

向後委員。

委員（向後悦世） 決算書のページ、26ページの事業費に関するところで、雑損失というのが結構大きくて8億3,000万円ほどあるんだけれども、この雑損失の大きなものは、何点かでも構いませんので、分かればお尋ねしたいと思います。

委員長（滑川公英） 向後委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

病院経理課長（鈴木清武） それでは、決算書の費用のほうの雑損失、こちら8億3,000万

円が21年度決算額になっております。こちらの内訳なんですが、診療報酬の査定減というものの、こちらが2億700万円ほど見ております。こちらは21年度からDPCを適用するという形の中で、本来は予算上はもうちょっと減るかなというふうに思っていたんですが、こちらは当初の予定よりも約7,000万円ほど多くなっています。

それから、もう一つ、こちらのほうに入っている項目としましては、未納患者の損金処理額、これが入っております。未納患者の損金処理額が、21年度は1,111万6,000円入っております。これは昨年20年度が1,667万8,000円ですので、それと比べると約550万円ほど減少しております。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 向後委員。

委員（向後悦世） 今の説明だと、おれも何か大まかなところでいって言ったんだけど、2点で約3億円ぐらいなんだけれども、もうちょっと細かく教えてください。

委員長（滑川公英） 病院経理課長。

病院経理課長（鈴木清武） もう一つ、一番大きなのは消費税の雑損失というのがありまして、決算額でいいますと、こちらが6億1,134万4,565円というような数字になっています。これは消費税雑損失については、20年度の決算では5億8,814万3,478円という数字です。ですから、この消費税の雑損失の部分が一番大きな要因になっています。

これは、消費税というのは病院が最終負担をするというような形になっていますので、医薬品とかそういういろいろ買ったものに対して、それを患者さんに転嫁することなく、最終的には病院のほうでそれを処理しているというような数字になっております。

以上です。

委員長（滑川公英） そのほかには。

平野委員。

委員（平野忠作） 決算書の25ページ、事業収入に関する事項の真ん中辺のやや上の医業外収入ですね、これが平成20年度から比べて1億2,000万円近くですか、2億1,000万円ですか、伸びています。その要点と内容です。

それと、次のページの26ページの事業費にかかる事項の真ん中辺の、今度は医業外費用のほうです。この説明を両方合わせてお願いします。

委員長（滑川公英） 平野委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

病院経理課長（鈴木清武） それでは最初に、医業外収入のほうのご説明申し上げます。

こちらは一番大きなものは人間ドックの収入が一番大きなものになっています。人間ドックが1億9,159万6,000円の収入になっています。

それから、次が公衆衛生活動、要は健診ですね、学校関係の健診をしたやつ、そういったものの収入としまして7,727万4,000.....、失礼しました、医業外収益のほうですね、ごめんなさい。

こちらは一番大きな要因が医業外収益、前年比6.87%.....、すみません、医業外収益の負担交付金の繰入額ですね、こちらのほうをご説明申し上げます。

こちらは、昨年度と比べまして大きく増えているわけなんですけれども、これが不採算金額、不採算部門に対するという形の中で、この辺大きく増えています。

一つは、精神科に関する特別交付税、こちらのほうです。病床割の部分でこちらが3,146万円ほど増えています。それから、小児病棟病床割のほうで、これが1,944万8,000円ほど増えています。

それから、救命救急センター、こちらのほうで4,477万2,000円ほど増えています。それから、小児救急医療提供病院、こちらで454万円ほど増えています。ということで、特別交付税こちらのほうの全体では、対前年比8,979万9,000円ほど増えています。

一方、従来、特別交付税で繰り入れしていただいたやつが、今後安定的に普通交付税という形の中で名称を変えまして増えている部分もございます。普通交付税が、まず病床割のほうで1億609万3,000円ほど増えています。

それから、続きまして看護師養成所分、要は看護学校の養成の部分ですね、これで825万8,000円ほど増額になっております。それから新たに、先ほど言った特別交付税から、名称を変えて普通交付税になった部分として救急告知病院数、こちらが3,287万1,000円ほど増えています。

それから、救急告知病床数、こちらが5,086万4,000円ほど増えています。全体でこちら2億4,377万6,000円ほど増えまして、この分が繰り入れのほうですね。

続きまして、医業外費用のほうです。こちらのほうを説明します。医業外費用全体としましては、対前年度決算比では2,200万円ほど減になっております。こちらの主なものとしては企業債の利息の関係、これが3,560万5,000円ほど減っております。利息の支払いとしましては、21年度は3億4,870万2,515円です。

それから、次が患者外給食、こちらが93万9,799円ということで、これも前年と比べます

と、24万4,539円減少しております。

それから、続きまして雑損失、こちらが先ほど言った8億3,058万427円ほど増えております。これは先ほど向後委員さんからの質問で答えましたけれども、一つは診療報酬の査定減、それから取り立て不納欠損、それから消費税の処理の分ですね。そのほかにどういうのがあるかといいますと、固定資産の売却損は予算計上してありますけれども、ありませんので、特にありません。

それから、あと次は繰延勘定償却ですか、こちらが決算では3億6,233万7,703円ということで、前年と比べますと2,351万2,000円ほど減っております。

以上でございます。

委員長（滑川公英） そのほかには。

（発言する人なし）

委員長（滑川公英） 特にないようですので、議案第9号の質疑を終わります。

続いて、議案第10号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

国民宿舎支配人。

国民宿舎支配人（増田富雄） それでは、議案第10号、平成21年度旭市国民宿舎事業会計決算の認定について、本会議においても補足説明を申し上げてあるところでございますが、建設改良工事につきましてご説明いたします。

決算書の11ページをお開きください。

施設防災改善工事でございますが、消防法の規定により指摘を受けておりました排煙設備等の改修を行ったものであります。

続きまして、ボイラー交換工事でございますが、温泉用ボイラーの交換工事であります。

続きまして、多目的ホール畳寄せ設置工事でございますが、和室としても利用可能とするため、畳寄せ木製枠と畳78畳を購入したものであります。

14ページをご覧ください。

地上デジタル放送対応テレビ43台を購入いたしました。これは地域活性化・経済危機対策臨時交付金525万円を受けまして購入したものでございます。

そのほかに工事件数といたしましては23件、工事費といたしましては1,022万4,463円ございますが、少額のため説明は省略させていただきます。

以上で補足説明を終わらせていただきます。

委員長（滑川公英） 担当課の説明は終わりました。

議案第10号について質疑がありましたらお願いいたします。

向後委員。

委員（向後悦世） いいおか荘支配人はじめスタッフの皆さん、一生懸命取り組んでいるのをすごく感じますが、どこでつまずいたんだか、年々赤字幅も拡大しているような部分がありますし、これ今後、何かどうも聞いていると苦情もかなり増えてきているのかなという部分も聞いています。自分もそう感じています。これやっぱりいいおか荘が、一番つまずく原因になったのは、恐らくリニューアルがつまずきの始まりでなかったかなと自分は思うんですが、そこら辺を検証して取り組んでいくことが、おれ大事じゃないかなと思いますんで、支配人さん、そのつまずき始まったところのやっぱり原点に立ち返って、再度考えてみるということが何かつまずき始まった原因や、またそういう教訓を学ぶことになるのではないかなと思って、自分もいいおか荘はすごく大事に考えているし、支配人さんもスタッフの皆さんも何か本当に一生懸命やって大変だなとすごく自分も思っていますので、そこら辺のいいおか荘の今後の経営が改善される改善策をぜひ見出しただきたいなと思いますが、そういうリニューアルがつまずいた原点にもう1回立ち返ってみるという部分で、そういう再認識すべきが必要じゃないかと思いますが、どうでしょうか。

委員長（滑川公英） 向後委員の質疑に対し、答弁を求めます。

国民宿舎支配人。

国民宿舎支配人（増田富雄） 向後委員さんのほうからいいおか荘がつまずいたということの、その原点に立ち返って検証すべきじゃないかというご質問でございますが、確かに今回のリニューアル工事で、部屋のほうは確かに泊まったお客さんの意見としては、きれいになったという、それはいただいております。しかし、一番の問題は、定員が160人が88人になったというのが一番大きなところかなと。夏場でしたらいつも満員になるんですけども、例えば前回、前の改装前でしたら160人、それに大きな宴会用の広間もございました。そういうのを目いっぱい使いますと、定員の160人を上回った宿泊人員を収容できるわけですけども、今回、宴会場としては40人くらいが一番マックスかなという、2階にありますけれども、それが団体用に使えますけれども、それがなくなったのが一番大きいのかな。いずれにしても、一般質問等でもいろいろご意見いただいておりますけれども、いろいろなプランを打ち出して、今後集客に努めていかなければいけないというような形で、いいおか荘職員一丸となってやっていく所存でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員長（滑川公英） 向後委員。

委員（向後悦世） 本当に支配人はじめ、皆さん一生懸命取り組んでいるのをよく自分も分かります。ただ、自分もいろいろ周りから自分も旧町の時代に飯岡荘の運営委員もしていましたし、いろんな顧客とも接点持ったり、また夏場のトラブル防止のためにも、うちに帰る前にはいいおか荘を必ず一度は建物周辺を回って帰ったりもしてきました。実際に、旧飯岡荘のときからの顧客、やっぱりその当時のままだったみたいな期待感のもとに今のいいおか荘を訪ねて、そんなに変わっちゃったんないいや、ほか当たるわというように立ち返っちゃう顧客もいるみたいなんで、そういうことを考えるとやっぱりリニューアルに問題があったのかな。何のかんのと言ったって顧客のニーズをやっぱり大切にしていけることが大事だと自分は思っていますので、そこら辺をうまく顧客のニーズに対応できるように、一生懸命やっているのは分かりますが、ひとつよろしくお願いします。

委員長（滑川公英） そのほかには。

島田委員。

委員（島田和雄） 監査委員の意見書なんですけれども、115ページなんですけれども、この中で宿泊利用率について記載されておりますけれども、前年度と比較しますと、15.4ポイント増加して40.8%になっているというようなことが書かれているわけなんですけれども、この40.8%という数字なんですけれども、これがどういったような数字になるかということなんです。これでもう限界なのか、まだまだ伸ばせると考えているのか、収入にとって一番のポイントになるうかと思しますので、その辺についてお伺いします。

委員長（滑川公英） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

国民宿舎支配人。

国民宿舎支配人（増田富雄） それでは、お答えいたします。

この40.8%が低い数字なのか、あるいは妥当な数字なのかというようなご質問だと思いますけれども、ちょっと古いデータで、旧飯岡町の時代の平成16年度の稼働率、利用率ですか、それをちょっと調べてみたんですけれども、この年につきましては、宿泊者は1万9,271人ございます。160人の定員ということで365で割り返して、また160の定員で割り返しますと、稼働率としては33%という形になりますね、1万9,000人泊まっておりますから。それが21年度につきましては、宿泊者が1万3,000人でございますけれども、定員が88人ということでいきますと、今言ったように40.8%ですか。ですから、あくまでも稼働率そのものにつきましては、40.8%というのは、私の個人的な意見としては決して低くないのかなというふうに考えるところでございます。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 島田委員。

委員（島田和雄） 宿泊については、利用率については上限に近いと。前の実績がかなりよかった時代においても、平成16年、33%というような数字だといった中で、40.8%はかなりいいというような答弁でありましたけれども、あと考えられることは経費の削減ということになるかと思えますけれども、今のこの数字をこのままやっていると、経費のほうが大幅に超過しているということで、もうずっと赤字だというふうなことになっちゃうんじゃないかなと思えますけれども、経費の削減について、削減できる部分というのがこれ以上あるのかどうかということなんですけれども、いかがでしょうか。

委員長（滑川公英） 国民宿舎支配人。

国民宿舎支配人（増田富雄） 経費の削減ということですが、まず人件費の削減、これ臨時職員がかなり多うございますので、いわゆるきょうの宿泊人員とか、そういうのに併せました効率的な職員の配置というようなことを考えていきまして、その辺については人件費の削減を図っていきたいというふうに考えております。

あと、ほかに食材のほうの見直しということで、できるだけ手をかけるような、素材で購入するというような形、加工品で買ったほうが、それが一番高くなりますので、なるべく手をかけるような形で、素材で材料を購入していくと。その辺も考えているところでございます。

あと、先ほど稼働率で40.8%がどうかということで、私なりにいい線じゃないかということを行いましたけれども、いいおか荘の今までの歴史の中で一番いいときが、一般質問の中にありましたけれども、3万4,000人くらい泊まったときがあります。その稼働率を見ると58%になります。そこまで持ってくれば一番最高なんですけれども、今40.8%です。先ほど申し上げましたけれども、その辺ももっと上げていかなければいけないのかなというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

委員長（滑川公英） 島田委員。

委員（島田和雄） 経費の部分で、これも監査委員の資料なんですけれども、150ページありますが、これは費用節別比較表というんですか、この中で下のほうになりますけれども、賃貸料、それからずっと下になりますが、手数料、これらが昨年と比べますと増加していますが、これはどういったもので、どういった理由で増えてきたのかということなんですけれ

ども。

委員長（滑川公英） 国民宿舎支配人。

国民宿舎支配人（増田富雄） 島田委員、賃借料610万7,430円のところですか。4.1%の20万円ほど上がったという分ですか……、ちょっとお待ちください。

ここの上がった分の理由でございますけれども、例えば送迎用のバスをいいおか荘で出しております。1台で足りないときに、民間というかバスを借り上げてやっている場合がございます。その辺でちょっと去年より高くなったということでございます。

あと、手数料のほうで上がった理由でございますけれども、リニューアル工事したときにPCB廃棄というか、処分料が出てございます。それが21年度に処理いたしました関係で上がっている分でございます。

委員長（滑川公英） いかがでしょうか。

（発言する人なし）

委員長（滑川公英） 特にないようですので、議案第10号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑を終わります。

議案の採決

委員長（滑川公英） これより討論を省略して、議案の採決をいたします。

議案第2号、平成21年度旭市国民健康保険事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

委員長（滑川公英） 全員賛成。

よって、議案第2号は認定することに決しました。

議案第3号、平成21年度旭市老人保健特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

委員長（滑川公英） 全員賛成。

よって、議案第3号は認定することに決しました。

議案第4号、平成21年度旭市後期高齢者医療特別会計決算の認定について、賛成の方の起

立を求めます。

(賛成者起立)

委員長(滑川公英) 全員賛成。

よって、議案第4号は認定することに決しました。

議案第5号、平成21年度旭市介護保険事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

委員長(滑川公英) 全員賛成。

よって、議案第5号は認定することに決しました。

議案第6号、平成21年度旭市下水道事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

委員長(滑川公英) 全員賛成。

よって、議案第6号は認定することに決しました。

議案第7号、平成21年度旭市農業集落排水事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

委員長(滑川公英) 全員賛成。

よって、議案第7号は認定することに決しました。

議案第8号、平成21年度旭市水道事業会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

委員長(滑川公英) 全員賛成。

よって、議案第8号は認定することに決しました。

議案第9号、平成21年度旭市病院事業会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

委員長(滑川公英) 全員賛成。

よって、議案第9号は認定することに決しました。

議案第10号、平成21年度旭市国民宿舎事業会計決算の認定について、賛成の方の起立を求

めます。

(賛成者起立)

委員長(滑川公英) 全員賛成。

よって、議案第10号は認定することに決しました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は全部終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これに異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

委員長(滑川公英) ありがとうございます。

ご異議がないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

委員長(滑川公英) それでは、以上をもちまして本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでございました。

閉会 午後 1時44分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会決算審査特別委員会委員長 滑川公英